

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02422

研究課題名（和文）ライフストーリーで辿るフィンランド教育の源泉 - 「教育における平等」概念の実相 -

研究課題名（英文）A Study on the Finnish view of equality in education

研究代表者

渡邊 あや（Watanabe, Aya）

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：60449105

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：フィンランドの教育政策の分析及び教育関係者のライフストーリー・インタビューから、教育政策が、直接的に平等を志向するものであるか否かに関わらず、平等志向の教育制度の基盤形成に貢献してきたこと、時代の変化の波を受けつつも通底する平等観が今なお一定程度引き継がれていること、その平等観は多層的なアプローチを含むものであること、教育関係者間で平等観や平等を志向する教育の意義が共有されていること、教育関係者の平等観には、自身の教育経験が大きな影響を与えていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、先行研究が自明のものとして扱い、その具体の検証を怠ってきた、フィンランドの「教育における平等」の概念を、教育政策文書の原典に当たって分析を行ったこと、フィンランドの教育政策や教育研究において重要な役割を担ってきたキーパーソンに対するライフストーリー・インタビューという手法を用いて検証することを通じて、その実相とそれを制度へと組み込むメカニズムの解明を行った点にある。多くの国において格差の拡大が社会問題化する中で、制度によって平等性の担保を試み、一定の成果を挙げているフィンランドを事例として検証したことは、この問題に対する解決策を検討していく上で意義がある。

研究成果の概要（英文）： The following five points emerged from the study: 1) Education policy has helped to lay the foundations of an equality-oriented education system, whether it is directly equality-oriented or not; 2) The underlying view of equality, which has undergone waves of change over time, is still inherited to some extent; 3) The Finnish view of equality in education involves a multifaceted approach; 4) The view of equality and the importance of equality-oriented education is shared by those involved in education; 5) Educators' views on equality are strongly influenced by their own educational experiences. The above conclusions were drawn from educational policy analysis and life history interviews.

研究分野：比較国際教育学

キーワード：フィンランド 教育政策 平等性 ライフストーリー オーラルヒストリー

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者のこれまでの研究とのつながり

本研究の直接的なベースとなっているのは、2016年度に、研究代表者が、所属先の特別研究費（学長裁量経費）を得て実施したプロジェクト「北欧諸国の教育制度における『北歐的価値』の変容」である。新自由主義の影響により、「北歐的価値」が変容しつつある実態を明らかにすることを試みた当該研究において、フィンランドが、新自由主義の影響を受けながらも、伝統的価値が未だ根強いという点で、他の北欧諸国とは異なる特徴を有していることを明らかにした。本研究は、ここで得られた知見に基づくものであり、フィンランドの特殊性に着目し、その要因であると予想される「教育における平等」の理念の実相とそれを具現化するメカニズムの解明に挑む点において、上記研究を発展させるものとして位置づく。

(2) 国内外の研究動向

フィンランドの教育政策・教育制度と、その根幹にある理念「教育における平等」にアプローチすることを試みた研究は、2000年代以降、国内外ともに様々な形で行われてきている。その多くは、国際学力調査における好成績の背景にあるものとして「教育における平等」の理念を指摘するものであった。これらは、日本への示唆を導き出すべく、比較的な視点からフィンランドの教育制度・政策を検証しているが、二次資料の分析が中心である。教育行政関係者に対するインタビューは行われているものの、現行制度についての説明を求める形のものが多く、体系的な形では行われていない。一方、フィンランドでは、国際学力調査における「成功の秘密」を歴史や現代の教育政策動向から描き出す研究だけではなく、フィンランド賛美の傾向に警鐘を鳴らす批判的アプローチに基づく研究も行われている。これらは、一次資料を参照し、制度・政策を丁寧に検証している一方、質的な調査手法はほとんど用いられていない。

本研究は、こうした研究動向を踏まえ、一次資料の分析に基づく文献調査とインタビューによる質的調査などの手法を用いて、フィンランドの教育における平等の実相にアプローチすることを企図するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、フィンランドの教育の理念的基盤である「教育における平等」の実相を、教育関係者のライフヒストリーと、教育政策の形成・展開過程の分析から描き出すことにより、フィンランド特有の「教育における平等」観の形成プロセス及び制度化プロセスを明らかにすることにある。

国際学力調査などの結果から、教育において平等性と卓越性を高い水準で担保している国とされるフィンランドは、教育における平等性の追求において、教育機会の平等と学習機会の平等に加え、学習成果の平等まで射程に入れているところに特徴があるとされる。では、このような「平等」観の違いは、制度や政策にどのような形で現れているのか。本研究では、「フィンランドは、その教育制度において、『教育における平等』の理念と、これに対する多層的なアプローチを組み込むことにより、教育における平等性を維持している」という仮説を設定し、その制度的メカニズムの解明に挑むものである。

3. 研究の方法

本研究は、比較的視点を持ちつつ、一次資料の詳細な分析（文献調査）と、ライフヒストリー的アプローチ（インタビュー調査）を組み合わせることで、フィンランドの教育理念や、教育政策の展開を立体的に描き出すことを試みた。

(1) 文献調査：教育政策分析

教育政策分析に当たっては、フィンランドの教育が平等を志向するものへと転換していった1960年代以降の主要政策を対象として、諸政策・施策を「平等」の視点から検証することにより、制度における「平等」の構築プロセスを検証するとともに、それらによって構築された制度における平等の実相の解明を試みた。

(2) インタビュー調査：ライフヒストリー・インタビュー

ライフヒストリー・インタビューでは、1990年代以降のフィンランドの教育に影響を与えた教育関係者（教育行政機関トップ経験者、教育学各分野の主要研究者等）を対象とし、被験者自身の教育経験、教育分野における職業経験（行政経験、研究経験）などに関する半構造化インタビューを実施し、教育政策に多大な影響を与えた人物の教育観、「教育における平等」観を明らかにすること、さらに、教育政策等の背景にアプローチすることを試みた。

4. 研究成果

(1) フィンランドの教育政策における「教育における平等」概念の検証

フィンランドが北欧型福祉国家への転換を図った1960年代以降の教育政策について、時系列的に分析を行った。その結果、1960年代以降、現代に至るまで通底する「平等」主義的なアプローチがある一方、近年、「平等」の解釈に僅かな変化が確認できることなどが明らかになった。

時系列的分析の中では、①北欧型福祉国家へと転換を図る以前のフィンランドの教育において、平等に対する意識を想起するような制度や政策はあまり見られなかったこと、②1960年代後半から1980年代前半には、現在の教育制度につながる改革が次々に断行された結果、それが平等を直接的に志向する政策であるか否かに関わりなく、結果的に、平等を志向する制度の構築に繋がってきたこと、③1990年代以降、波はありつつも新自由主義的な政策が展開される中でも、フィンランドに根付いた教育における「平等」を志向する考え方により、大きな変革につながらなかったこと、④2010年度以降、教育の「平等」の捉え方に振り子現象が生じていること、⑤社会の変化とそれに伴う政策の変容により試行錯誤しつつも、「教育における平等」への多層的なアプローチは継続して試みられていることが明らかになった。また、「どのような状況を平等と捉えるか」ということ、「誰と誰の間の平等であるか」ということについては、フィンランド社会の変化に付随する形で変容していることも明らかになった。

(2) 教育関係者のライフヒストリー・インタビューによる「教育における平等」の検証

教育関係者のライフヒストリー・インタビューでは、フィンランドの教育制度が平等を志向するものへと転換していた時期に教育を受け、その後、教育政策立案等に教育行政関係者としてあるいは教育研究者として関与した関係者を対象とした。それらを通じて、①教育における平等が、政策上の優先事項であることについて社会のコンセンサスがあると感じており、自身もそのように考えていること、②教育政策立案等に関与した関係者の平等観の背景には、自らの教育経験を通じた平等の意義や重要性の認識が大きくかかわっていること、③フィンランドの教育政策が時の政権の影響を一定程度受けつつも、「平等を志向する」という基本的な姿勢については、多少の濃淡はありながらも、維持されていること、などが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 50巻12号
2. 論文標題 「グローバル化時代の大学ガバナンス - フィンランドの事例から考える大学の自律性」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 1059号
2. 論文標題 「フィンランド共和国北カルヤラ県の教育事情」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ロシア・ユーラシアの社会』	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「第2章 教育課程の概要 5 フィンランド」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『諸外国の教育課程改革の動向』	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「第3章 教育課程改革の諸課題 1カリキュラム・オーバーロード フィンランド」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『諸外国の教育課程改革の動向』	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「第3章 教育課程改革の諸課題 4教科等横断的な学習・現代的な諸課題 フィンランド」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『諸外国の教育課程改革の動向』	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 61
2. 論文標題 「平等性と卓越性の両立をどう図っていくか フィンランドの選択と葛藤」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『比較教育学研究』	6. 最初と最後の頁 64-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 16
2. 論文標題 「フィンランドにおける義務教育を巡る議論から考える「北欧的価値」のゆくえ - 民主主義の価値に根差した多元的社会を生きる市民の育成を担う教育の展望 -」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 3(5)
2. 論文標題 「フィンランドにおける就学前教育の現状」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会保障研究』	6. 最初と最後の頁 419-420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 なし
2. 論文標題 「フィンランド」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『海外教科書制度調査研究報告書』	6. 最初と最後の頁 325-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「フィンランドにおける地方教育行政の組織と機能」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『地方教育行政の組織と機能に関する国際比較研究』	6. 最初と最後の頁 94-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「フィンランド 1)教育制度の概要」「フィンランド 2)教育課程」「フィンランド 3)教育行財政」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較 - フィンランド、スウェーデンと日本の比較から - 研究成果報告書』	6. 最初と最後の頁 111-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渡邊あや
2. 発表標題 「フィンランドにおける 資質・能力の育成と 学習のアプローチ - 学習の個別化と協働的な学びを中心として - 」
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊あや
2. 発表標題 フィンランドにおける義務教育を巡る議論から考える「北欧的価値」のゆくえ - 民主主義の価値に根差した多元的社会を生きる市民の育成を担う教育の展望 -
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会2019年度大会（於・龍谷大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊あや
2. 発表標題 教科書は多様性とう向き合っているか - フィンランドの公民科教科書を事例として -
3. 学会等名 日本比較教育学会第59回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 中田麗子・佐藤裕紀・本所恵・林寛平・北欧教育研究会（編著）、渡邊あや他（著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 『北欧の教育再発見 - ウェルビーイングのための子育てと学び - 』	

1. 著者名 二宮 皓（編著）、渡邊あや他（著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 『世界の学校 - グローバル化する社会と学校のリアル - 』	

1. 著者名 北欧教育研究会（編著者：林寛平、本所恵、中田麗子、佐藤裕紀、著者：渡邊あや他16名）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 『北欧の教育最前線 - 市民社会をつくる子育てと学び - 』	

1. 著者名 原田信之編著、渡邊あや他7名（著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 『カリキュラム・マネジメントと授業の質保証：各国の事例の比較から』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際セミナー「フィンランドの教育における平等 - 伝統的価値と新たな挑戦 - 」	開催年 2024年～2024年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
フィンランド	教育文化省		